

医学系研究に関する情報公開文書

研究課題名	微小残存病変が陰性化した移植適応新規骨髄腫患者50例の解析
研究責任者	血液内科 石田禎夫
研究機関名	日本赤十字社医療センター
研究目的と意義	骨髄腫の治療は長期間メルファラン、プレドニゾロン(MP)療法が標準療法であり、完全奏効(CR)率は5%前後でした。日本では最近の15年間に新規薬剤が10剤承認され、深い奏効と生存期間の延長が得られるようになりました。さらに、2019年から骨髄の形質細胞腫瘍の微小残存病変(MRD)の測定が健康保険で検査できるようになりました。しかし、CRを得られた症例であってもMRD陽性であれば早期に再発すること、真の予後良好例はCRになりMRD陰性を達成した患者さんであることが報告されています。当センターで自家末梢血幹細胞移植を(ASCT)を行った症例のうちMRD陰性を達成した患者さんの予後を解析し、MRDを達成しても予後の悪い群を解析することで、MRD陰性達成後の治療戦略の確立につなげていきたいと考えています。
研究方法	2016年1月から2019年12月の間に当センターで症候性多発性骨髄腫と診断された患者さんのうち、ASCTを施行した患者さんでMRD陰性を達成した骨髄腫患者さん50例(年齢34歳～66歳、年齢中央値57歳)について無増悪生存期間、全生存期間を検討します。さらに予後不良群の診断時病期、FISH検査データ、腎機能等を解析することで予後不良因子を同定し、今後の治療戦略を考察します。 倫理的配慮:上記解析は、個人情報保護に十分配慮した上で行います。情報は、個人名が特定されないようにすべて匿名化されます。上記対象に該当される方で、本研究への登録を希望されない場合は下記までご連絡下さい。登録を希望されない場合でも、診療上不利益を被ることは一切ありません。
問い合わせ先	日本赤十字社医療センター 血液内科 〒150-8935 東京都渋谷区広尾4-1-22 担当者:石田禎夫 TEL:03-3400-1311 FAX:03-3409-1604